

実践 多職種カンファレンス 事例②

事例紹介

Bさん 78歳 男性 要介護3

【診断名】 胃がん末期 多発骨転移(胸椎、腰椎)

【既往歴】 脳梗塞後遺症 パーキンソン症候群

【性格】 温和 我慢強い性格

【意思疎通】

発語は若干不明瞭だが、問いかけは、ほぼ理解できる。

【生活歴】

□ 他県在住にて妻と二人暮らし。

妻に認知症状が出現し、夫婦でケアハウスで入居。

□ 平成25年5月、妻の認知症状進行により、妻はグループホーム入所。本人は長女宅にて在宅療養開始。

事例紹介

【家族構成】

本人 娘夫婦 孫(高校生・中学生)

妻(グループホーム入所中)

【キーパーソン】 長女(決定権は婿)

(長女)

- 自宅介護に自信がない。
- 本人の意思を尊重したい。

(婿)

- 自分の親が入院中つらい思い(延命処置の末の看取り)をしたので入院させるつもりはない。
- 家庭内では言葉の暴力あり。
- サービスをいれる事は長女が樂することと考えている。

事例紹介

【日常生活動作】 一連の動作に一部介助が必要

【経過】

- 平成25年3月胃がんと診断。
長女の意向にて告知せず。
- 5月D病院緩和医療科受診。
- 7月本人の意向(痛みの緩和・リハビリ)にて入院。
しかし、婿の意向にて入院日に退院となる。
- 長女は介護負担ストレス、不安にてケアマネ事業所に頻繁に電話をかけてくる。

事例検討

【問題点】

- 本人の意向が聞き入れられない。
- 介護家族の意向が統一されていない。

【検討内容】

- 上記の問題点に対して、医療および介護サービス関係者は、どのような調整、方針が必要か。